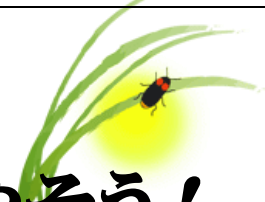


「みやぞの野鳥の池」のホタル

幼虫の飼育に
26 人が参加

来年はもっと増やそう！



「みやぞの野鳥の池」をホタルの楽しめる池にしたいと願う「ホタル再生計画」が、今年度もスタートしました。10 月 31 日に幼虫飼育説明会(写真)を開催し、全部で 26 人の方がボランティアで幼虫飼育に参加しています。協力者はそれぞれ 20 匹の幼虫を育てていて、全部で 520 匹にもなります。



幼虫には約 1 センチの大きなものもありますが、小さなものは 2~3 ミリ。これを来年春までに 2 センチ前後の大きさにまで育てて、6 月にみやぞの野鳥の池に放流します。

飼育協力者は宮園ばかりではなく、鯖ヶ崎、松戸

市中金杉の方もおいでになり、みやぞの池のホタル再生が地域全体から期待されています。この事業は今年度の全労済「地域貢献事業」の助成を受けています。

池周囲の清掃・除草活動にご協力ください

「市民の会」では、年間を通して月 2 回の定例日を決めて、みやぞの野鳥の池と坂川土手の清掃・除草などの活動を、1 時間をめどに実施、環境の維持と向上に努めています。

今後の日程は次の通りです。みなさま方のご協力をお願いします。

▽11 月=14 日(第 2 土)、28 日(第 4 土)

▽12 月=12 日(第 2 土)、26 日(第 4 土)

▽1 月=23 日(第 4 土)

冬季は 1 時間遅らせて、いずれも 10 時、藤棚公園（場合により坂川土手の水辺公園）集合。雨天は中止です。

ホタル定着に最低 5 年の努力

6 月に池に放流された幼虫は間もなく池の岸辺に上陸、サナギになって土中で約 1 カ月過し、7 月中旬に羽化してホタルになって飛ぶのです。

ホタルとして過ごす約 10 日の間に、オスメスが出会って交尾し、卵を産んで一生を終えます。その卵が孵って、またホタルの一生が始まります。

池にホタルが棲みついで、このようなサイクルを自然の中で復元するには、最低 5 年間は幼虫の放流を続けることが必要と考えられます。

「市民の会」は、みやぞの池にホタルが自然に棲息する状況を最終目標にしています。「ホタル再生計画」には、辛抱強い努力が求められているのです。

「元気で楽しく、きれいな街！」一、「市民の会」はこんな情景を描きながら活動している団体です

ホタルの自然棲息促進へ

タニシを採取して放流

ホタル再生に向けて「市民の会」は、毎年タニシを池に放流して、ホタルの生息環境を整備する活動もしています。

ホタルの幼虫の餌はタニシなどの貝ですが、それが池に棲んでいなくては幼虫は生きられません。それで、タニシを新川耕地で採取して、池に放流しているのです。

今年は幼虫飼育説明会の前の10月26日に、市民の会役員が新川耕地に出かけて約1200個のタニシを採取。半分は池に放流し、残り半分は幼虫飼育者の餌が無くなった時のキープと

して確保しています。

写真 上=採取したタニシの選別、下=野鳥の池に放流



ああ～、残念！

「花苗と野菜の青空市」に雨傘の花が咲く



あいにくの雨に雨傘を片手に花苗を選ぶ人たち

みやぞの野鳥の池を彩る行事として恒例の「花苗と野菜の青空市」が、11月8日午前、藤棚広場で開かれました。

この日は残念ながら朝から雨模様。開店の10時には少し雨足が強くなり、「青空市」の名が泣くあいにくの

天気となりました。でも、地域の大勢の方々が訪れて、シクラメンやパンジー、ビオラ、ストックを選ぶ人の傘がカラフルに会場を彩りました。野菜は流山の農協さつき会の皆さんが収穫したダイコンやサトイモなど、秋の味覚がたっぷり並びました。また、鰯ヶ崎の和菓子の「美しまや」のお菓子も販売しました。

流山市ホームページで「水辺フェスタ」を紹介

流山市のホームページの「ぐるっと流山」欄で、10月に坂川土手で開催された「水辺フェスタ in 宮園」が多数の写真と一緒に紹介されています。ご覧になってください。アドレスは以下の通りです。

<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/397/027886.html>